



健康ガイド

問 健康推進課(佐屋保健センター)
☎(28)5833

定期予防接種について

接種区分		対象者	回数	自己負担金	通知方法等	接種場所
高齢者 インフルエンザ		①満65歳以上の方 ②満60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器に障害のある方(身体障害者手帳1級程度)またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障害のある方	1回	1,500円	【接種期間】 10月1日(木)から令和9年1月31日(日)まで ・予診票などの個人通知はしません。 ・詳しい内容は、10月号広報と同時配布の「高齢者インフルエンザ予防接種のお知らせ」及び「高齢者新型コロナウイルス感染症予防接種のお知らせ」をご覧ください。	海部管内(愛西市、津島市、弥富市、あま市、海部郡)の指定医療機関
高齢者新型コロナ ウイルス感染症		①満65歳以上の方 ②満60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器に障害のある方(身体障害者手帳1級程度)またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障害のある方障害のある方	1回	6,000円		
高齢者の肺炎球菌 ワクチン		①65歳の方 ②60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能、又は、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に1級程度の障害を有する方障害のある方障害のある方	1回	4,600円	対象者①は、65歳到達月の翌月初旬に個別通知 対象者②は、事前手続きが必要	
高齢者の 帯状疱疹 ワクチン ※⑦、① いずれか一方	㊦ 「ビケン」	①年度内に65歳となる方 ②60歳以上65歳未満の方で、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に1級程度の障害を有する方	1回	3,000円	対象者①・③は、令和8年3月末に個別通知 対象者②は、事前手続きが必要	
	① 「シングリックス」	③年度内に70、75、80、85、90、95、100歳となる方(経過措置による対象者)	2回	7,000円/回		
HPV感染症ワクチン (子宮頸がんワクチン)		12歳となる年度の初日から16歳となる年度の末日まで(小学校6年生～高校1年生)の女子	2回 または 3回	無料	中学校1年生の女子に予診票を郵送	
RSウイルスワクチン		妊娠28週から36週6日までの方	1回	無料	母子手帳交付時に交付 ※一部郵送交付の方があります。	

愛知県広域予防接種事業について

定期予防接種について、海部管内の指定医療機関以外にかかりつけ医がいる場合や長期入院、里帰りなどの事情がある場合、海部管内以外の医療機関(愛知県内の接種協力医療機関)で接種を受けることができます。接種を受ける前に手続きが必要ですので、健康推進課へお問い合わせください。

妊娠を希望している方の風しんワクチン接種費用の助成について

妊娠を希望する女性で、風しんの抗体検査の結果、風しんの抗体が不十分と判断された方(経産婦、妊婦、接種歴・既往歴がある方を除く)を対象に、麻しん風しん混合ワクチンまたは風しんワクチンの接種費用の全部または一部を助成しています。

※愛知県の助成事業として、抗体検査にかかる費用の助成を受けることができる場合があります。

特別の理由による任意予防接種費用の助成について

骨髄移植手術その他の理由により、接種済みの定期予防接種の効果が期待できないと医師に判断され、任意による再接種を受ける方に対し、再接種に要する費用の全部または一部を助成しています。再接種を受ける前までに手続きが必要ですので、健康推進課へお問い合わせください。

予防接種について→



歯と口の健康講座その530

お口の中の細菌

大人の口の中には、300～700種類の細菌が生息しているといわれています。歯をよく磨く人で1000～2000億個、あまり歯を磨かない人では4000～6000億個、さらにほとんど磨かない人では1兆個もの細菌が住み着いています。

細菌と聞くと、誰しもあまりよくないイメージを抱くかと思いますが、お口の中に細菌がいること自体が悪いことではありません。例えば、乳酸菌などの善玉菌は、口腔内の酸性度を調整し、虫歯の予防に役立ちます。また、口腔内の細菌は、体内に侵入しようとする病原菌を防ぐ役割もあります。しかし、菌量をコントロールできていないとど

うなるでしょうか?虫歯や歯周病になるだけではなく、口臭の原因にもなります。そして、唾液を飲み込むことで体内に細菌が侵入し、また、歯周病で炎症(出血)を起こしている歯肉の血管に細菌が入り全身をめぐることで、全身疾患を引き起こすリスクへと繋がっていくのです。体の健康を保つには口腔内の菌量を良好なバランスで保つことが大切です。

歯周病によって危険性が高まる全身疾患の事を、歯周病関連全身疾患症候群と呼びます。代表的なものをあげると、誤嚥性肺炎や脳卒中、心筋梗塞などがあります。誤嚥性肺炎は、細菌を唾液とともに飲み込む

ことで、気管支の粘膜や肺に炎症が起こります。とくに高齢者はリスクが高く、重症化すると最悪命を落とすこともあります。脳卒中や心筋梗塞は、歯周病菌が歯肉から血管内に侵入することで、血管が狭くなったり傷ついたりして発症のリスクが高まります。

このように、お口の中の細菌は全身をめぐる様々な疾患を引き起こすのです。口腔内の菌量をコントロールすることが大切なのは、お分かりいただけたかと思います。では、どうやってコントロールしていけばいいのでしょうか。まず、何より大切なのは口腔内を清潔に保つことです。毎日の歯磨きはもちろん、歯磨きでは取れない汚れは定期的に歯科医院でクリーニングをしましょう。(海部歯科医師会)

